

9月25日正午必着

明石春浦先生書

樓上離歌歇 江頭欸乃新  
歸舟回首處 猶見倚欄人

白首渡江見倚欄人

樓上離歌歇

江頭欸乃新

歸舟回首處

猶見倚欄人（廣瀬淡窓）

叶澄石先生書

四時雪白幾千秋 八面陰寒數十州  
仰視層霄如削出 雲間一箇土饅頭  
（石川丈山之詩富士山庚寅之歲季秋上澣吉日、書）

よじゆきはしきくせんしゅう はちめんいんかんすうじゅつしゅう  
四時雪白幾千秋 八面陰寒數十州  
あおぎみればそうよう うんかんいことまんじゅう  
仰視層霄如削出 雲間一箇土饅頭  
（石川丈山之詩富士山庚寅之歲季秋上澣吉日、書）

9月25日正午必着



明石幸子書

## 条幅部創作課題

三種の詩文から一種を選択して出品のこと。

涼聲度竹風如雨、碎影搖窓月在松 (文徵明)

竹林を吹き渡る風声は雨の如く、窓にうつる  
松影は碎けうごいて月が松にかかるている。

### 明月流素光一

渡江

涼月漾中流 金山隱隱浮  
尙餘殘醉在 和夢到揚州 (繆彤)

江を渡る 繆彤  
涼月中流に漾い 金山隱隱として浮かぶ  
尚殘醉を余す在り 夢に和して揚州に到る

涼しそうな月が川の中ほどに映り、金山がか  
すかに浮かんで見える。まだ酔いが覚めず、  
夢うつつの中に揚州に着く。

### 北平送友人南歸 (陳至言)

哀角嚴城起 悲秋淚滿衣  
如何遊子恨 偏自送人歸  
霜落孤鞍急 天高獨雁飛  
賞心零落盡 朋舊日應稀

北平にて友人の南帰するを送る 陳至言  
哀角嚴城に起こり 悲秋涙衣に満つ  
遊子の恨みを如何せん 偏に自ら人の帰るを送る  
霜落ちて孤鞍急に 天高くして独雁飛ぶ  
賞心零落尽き 朋旧日に応に稀なるべし

涼しそうな月が川の中ほどに映り、金山がか  
すかに浮かんで見える。まだ酔いが覚めず、  
夢うつつの中に揚州に着く。

秋晴のひかりとなりて樂しくも實りに入らむ栗も胡桃も

(齋藤茂吉)

## 半紙部規定課題A

9月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

明石春浦先生書

## 半紙部規定課題B

9月25日正午必着

行書

隸書

明石春浦先生書

題元錄事所居一  
劉長卿

幽居蘿薜情

高臥紀綱行

鳥散秋鷹下

人閑春草生

冒嵐歸野寺

收印出山城

今日新安郡

因君水更清

人閑春  
草生

草生人閑春

元錄事が所居に題す

劉長卿

幽居して蘿薜の情あり

高臥して紀綱行わる

鳥散じて秋鷹下り

人閑にして春草生ず

嵐を冒して野寺に帰り

印を収めて山城を出づ

今日新安郡

君に因つて水更に清し

草書

人閑春  
草生

草生人閑春

行草書

おくぶかい住居、山中のつたかずらをいとおしむそのこころ

その徳によって綱紀秩序は正しく行われる

秋の鷹は下りたって、鳥どもは飛び散じ

春の草は生い茂り、人は閑静にすごす

山氣をかきわけて田舎の寺に帰り

官印をしまって山中の城を出る

今やここ新安郡は

君ゆえに水がいっそう清らかなことだ

高雅に隠遁されるが、

水更に清し

おくぶかい住居、山中のつたかずらをいとおしむそのこころ

高雅に隠遁されるが、

水更に清し

今やここ新安郡は

君ゆえに水がいっそう清らかなことだ

高雅に隠遁されるが、

水更に清し

## 条幅部半紙部臨書課題

篆書『三略』八屏 光緒四年戊寅（一八七八）五十歲



夫能扶天下之危者、則據天下之安。能除天下之憂者、則享天下之樂。能救天下之禍者、則得天下之福。



故澤及人民、則賢歸之。澤及蟲蟲、則聖歸之。賢人所歸、則其國強、聖人所歸、則六合同。賢者之政、降人以



夫れ能く天下の危きを扶ぐる者は、則ち天下の安きに拠る。能く（天下の憂を）除く。夫れ能く天下の危きを扶ぐる者は、則ち天下の安きに拠る。能く（天下の憂を）除く。



清趙之謙・「三略」八屏（その一・二）

道光九年（一八二九）七月九日浙江省紹興に生まれ、光緒十年（一八八四）五十六歳で没した。はじめ字を益甫、冷君と号し、三十代になって字を撫叔、悲盦・无悶・憨寮などと号した。

町の有力な商家の二男として生まれ、幼い頃から学問に目覚め、その才能を發揮していたが、家の没落、妻子の死という悲劇に見舞われた。科挙の推薦試験に合格していた彼は、三十五歳の時に進士の試験を受けたが、そこで出会った多くの人々や豊富な金石書画に触れ、すぐさまその道にめり込んでいった。応試は二の次になり、五度の受験も結局及第することは出来なかった。

彼の才能は書画篆刻に發揮されたが、書は晩年に熟境に到った。応試に必須であった顔法に始まり、北魏の刻石に触発され、さらに包世臣の書論における逆入平出の法に心酔し、独自の解釈を加えて彼の書法は完成していく。

はじめの二幅が掲載されたこの「三略」八屏は彼の五十歳の作で、シンメトリカルな静的イメージの小篆に視覚的動勢を与えるながらも、終筆に筆圧をかけて止めることによる秦篆の格調の高さに迫ろうとしているといわれている。

（春濤）

9月25日正午必着

教育部毛筆



穀

物

中学一年

雨宮春聲先生書



玉

露

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



責

任

小学五年

藤井良泰先生書



好

感

小学六年

森戸春濤書

9月25日正午必着



社

会

小学三年

細谷 春誠先生書



果

実

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



の

り

小学一年・幼年

明石幸子書



いり

ぐち

小学二年

藤田幸春先生書

9月25日正午必着

## 教育部 硬筆

## ペン字部

おひがんには家族で  
墓まいりに行きます

むかしから家に伝わ  
る古い柱時計がある

部屋の中はよく整理  
されとても清潔です

こだまの裏で待つは誰

いのちのさりほびかけの

世の中よ道こそなけれ思ひ入る山のおくにも鹿ぞ鳴くなる（皇太子宮大夫俊成）

やのゆよふくすずけれ黒  
入る山のわくよ鹿ぞ鳴くす

小学五年

小学六年

中 学

一般(級位)

一般(段位)

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

いおま  
このつり  
ねの  
いろた

幼年

小さなぞうこ  
ととりふに

小学一年

草花でかえつに  
をかがえつに

小学二年

歌を山ほる  
さかみる

小学三年

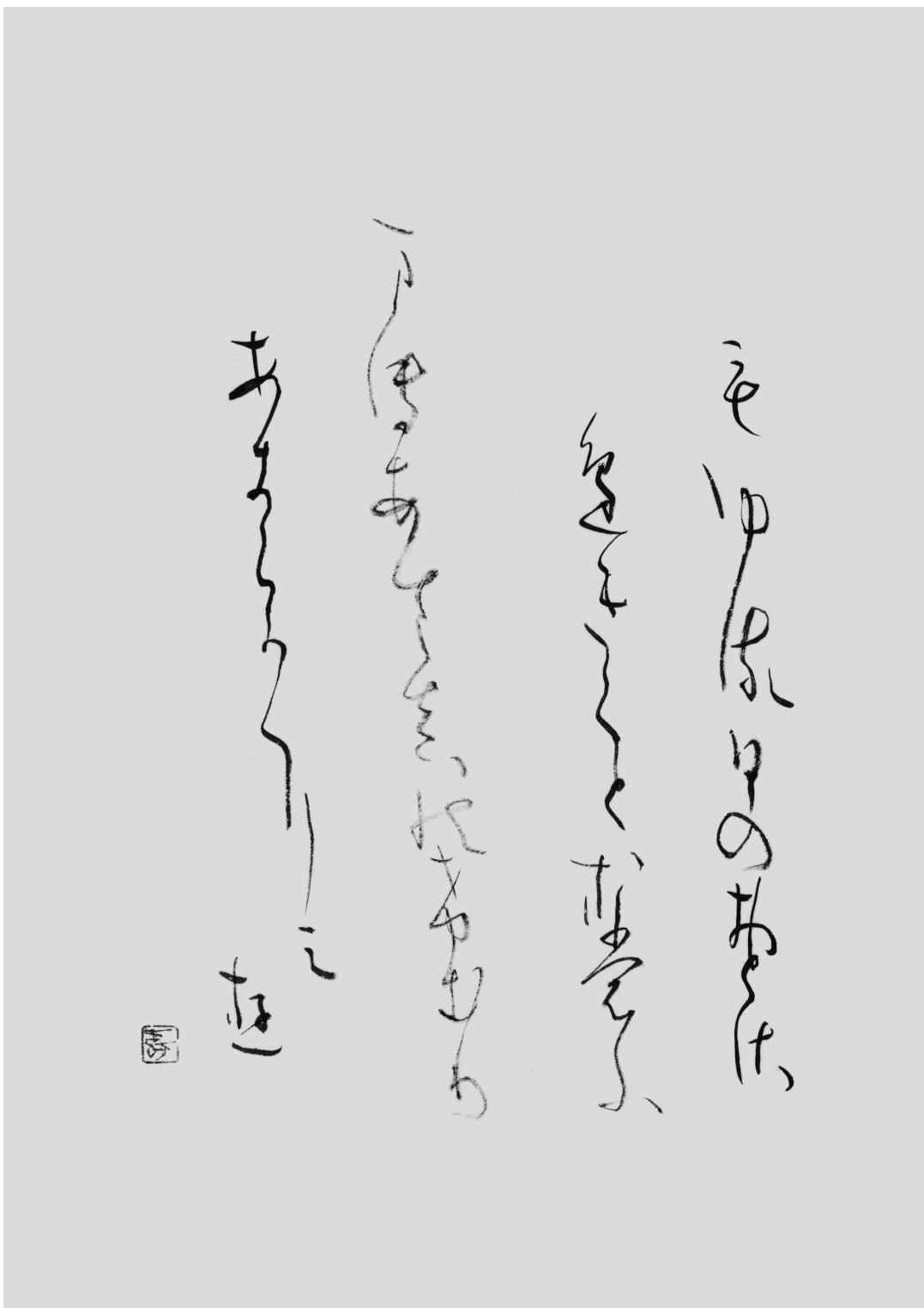
葉が風に舞れる  
黄緑の小さなひた

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

## 半紙部かな参考

9月25日正午必着



若本景楓先生書